

## 「下水道スタートアップチャレンジ」(開催報告(令和2年9月8日))

1. 概要

日時	令和2年9月8日(火) 15:00~17:00
場所	株式会社三菱総合研究所 会議室より動画配信
参加者	参加申し込み 467名(当日の瞬間最大視聴者数 364名) (下水道関連企業 141名、異業種企業 243名、省庁自治体等 48名、その他 22名)

2. プログラム

- 開会挨拶(国土交通省)
- 意見交換会の趣旨説明(三菱総合研究所)
- プレゼンテーション
  - ・ AIを用いた下水道管渠損傷検出システムの実証実験について(ジャスト)
  - ・ 下水中のウイルス情報を活用した感染症拡大予防について(仙台市)
- パネルディスカッション<登壇者6名>(司会:三菱総合研究所、まとめ:国土交通省)
  - 株式会社ジャスト 代表取締役 角田賢明
  - 仙台市建設局下水道事業部下水道調整課長 加藤 公優
  - ユニアデックス株式会社 DXビジネス創生本部 担当部長 柿澤 至倫
  - 株式会社 Rist 代表取締役社長 藤田 亮
  - ソナス株式会社 代表取締役 大原 壮太郎
  - FRACTA(フラクタ) 事業開発ディレクター 樋口 宣人

3. パネルディスカッション(論点まとめ)

テーマ 下水道を通じたスマートシティの実現

- ・ 異業種における ICT 導入による状況及び効果
  - ➡ 近年導入(最近2-3年)が進んでいる=内部コストに包含可能。  
金融業界やこれまで敬遠していた企業もクラウド活用へ転換。  
AIは実証段階から実装へ、費用対効果の検討に十分乗ってくる技術。
- ・ 異業種における「クラウド」のセキュリティ対策。
  - ➡ ゼロトラスト(社内も安全ではない?)  
自社でセキュリティ対策するよりクラウドの方がむしろ安全な場合も。  
複数のクラウド形態が存在するため顧客ニーズに応じた対応可能。
- ・ 下水道でのビッグデータ活用、オープンデータ化に向けて

